

義認・聖化・栄化

この学び全体のアウトライン

第1章 栄化（2018年6月）

- 義認・聖化・栄化とは、何か。神が人を罪人の状態から救い出して、神が人を造られたときの本来の目的のとおりその人を完成させる、神のみわざである。
- 救いのゴールは、人が造られた本来の目的のとおり完成されることである。神の栄光を反映する者となるという意味で、救いのゴールを「栄化」と呼ぶ。
- この学びでは、ゴールを明確にするため、まずこの栄化について扱った。

第2章 救いの9つの面（2018年7月～2019年3月）

- 人はどのようにして罪人の状態から救い出されるのか。そして、救いを受けたらどうなるのか。この観点から、救いの9つの面を扱う。
- 人はどのようにして救いを受けるのか・・・5つの面がある。再生、転回、信仰、悔い改め、告白
- 救いを受けたら、どうなるのか・・・4つの面がある。赦し、転嫁、子とされること、救われたことの確信

第3章 義認（2019年5月）

- 救いの入り口に入ること＝神から義人であると認めていただく
- その人の現実はそうではない。義人であるとみなされる。

第4章 聖化（2019年6月～12月）

- 聖化の意味・・・聖化に関連する9つのギリシヤ語が使われている箇所を見ると、「聖化」の基本的意味は、「別に取り分けること」であると、わかる。日本語聖書で「聖化」ではなく、「聖別」とも訳されるのは、そのため。
- 「別に取り分けること」の8つのパターン・・・誰が（何が）、誰を（何を）、別に取り分けるのか。聖書では、8つのパターンがある。
- 「聖化」はどのようにして起きるのか 5つ・・・8つのパターンのうち、この学びで対象とするのは、神が信者をこの世とは別に取り分けるパターンである。神学では、これを「聖化」と呼ぶ。それはどのようにして起きるのか。まず、信者が自分の清潔さや正しい行いに立たず、イエス・キリストにあるという地位に立つ。このことをはじめとして、5つのポイントがある。
- 「聖化」の主体・動因・経路・・・聖化は、①三位一体の神が主体となって起きる。②神が働かれるとき、それは神の良きみこころから発する。③聖化は聖書に記された神のことばを通して行われる。
- 「聖化」のタイプ 4つ・・・聖書は、聖化のタイプが4つあることを教える。

第一に、人を「信者に導く」ための聖化

第二に、その人を神の目から見て、「すでに完全に聖いという地位を与える」聖化。この地位は、信者となった瞬間に与えられる。

第三に、信者の内側を「その地位にふさわしい者へと変えていく」聖化

第四に、その人の内側から罪の存在そのものをなくしてしまう、そしてその体にも罪の影響を全く残さない聖化。これは、「最終的聖化、あるいは栄化」と呼ばれる。

- 神のかたち・・・栄化によって、信者は人として本来造られた目的のとおり完成される。これを聖書は、「神のかたち」、「神の似姿」という表現をする。神のかたちとは何か。人格的であること、霊的であること、倫理的であること、社会的であること、権威的であること。救いによって、人は神のかたちを回復する。

第5章 新約時代の信仰生活における指針とは（2020年1月～2月予定）

- 基盤・・・メシアの律法 と 旧約聖書の中の永遠の諸原則
- 神によって実行可能とされること
- 生活の仕方・・・メシアと同じ思いに立つ、メシアをまねる
- 神の恵み・・・私たちはメシアをまねる、しかし、信者の中にメシアのかたちを成してくださるのは神のみわざである。自分の力でできることではないのであるから、これは神の恵みである。
- 具体的な生活領域ごとに見るメシアの律法
 1. 政治権力との関係
 2. 訴訟（裁判所）との関係
 3. 主人としもべとの関係→雇用主と勤労者との関係
 4. 勤労倫理
 5. 夫と妻との関係
 6. 親と子との関係
 7. 教会内の関係
- 十戒とメシアの律法との対比・・・違いは「安息日」の規定の有無

本日は、「第5章 新約時代の信仰生活における指針とは」の第1回です。

第5章 新約時代の信仰生活における指針とは

1. 基盤

(1) メシアの律法 (ガラ 6:2)・・・メシアによって与えられた律法である

① いのちの御霊の律法 (ロマ 8:2)・・・私たちの内に住まわれる聖霊が私たちを生かしてくださり、メシアの律法の要求するところに従って生きることができるようにしてくださる。その結果、私たちは霊的生活を送ることができる。

- 「いのちの霊の律法」とも訳せる。この場合の「霊」は、新しい性質。信者は、「肉」=罪の性質に従わず、神に従うことができる。

② 完全な律法 (ヤコブ 1:25)・・・モーセの律法は、人にそれを行わせる力を与えられなかったという点で、欠けあるものであった。メシアの律法は、内住の聖霊によって実行可能とされる、欠点のない完全な律法である。

③ 自由の律法 (ヤコブ 1:25、2:12)・・・メシアの律法によって、ユダヤ人たちはモーセの律法から自由にされた。モーセの律法の「のろい」から解放されたとまで表現される (ガラ 3:10, 13)

(2) 旧約聖書の中に記された永遠の諸原則

① 例えば、「神は罪を罰する」

② 神と人との契約で、今も有効な契約条項

- アダム契約の条項
- ノア契約の条項
- アブラハム契約の条項

③ 詩篇、箴言、預言者たちのことば・・・これらの中には、モーセの律法ではなく、永遠の諸原則に基づいて語られている内容が多い

2. 神によって実行可能とされること

(1) これは、旧約の聖徒たちには与えられていなかった (ヨハネ 7:37~39)

(2) 新約聖書の中で、このことが教えられている箇所

① 使徒 1:8

② ロマ 5:5

③ ロマ 6:4

④ I コリ 2:1~13

⑤ I コリ 6:19

⑥ ガラ 3:2

⑦ I テサ 4:7~8

⑧ I ヨハ 3:23~24

⑨ I ヨハ 4:13

3. 生活の仕方・・・私たちはどのように生活をするべきか。メシアならどのように考え、どのように行動するか、それをいつも思い浮かべながら、メシアをまねることである。
- (1) ロマ 8 : 29・・・私たちのゴールは、神の御子のかたち的一致することである
 - (2) ピリ 2 : 5・・・メシアと同じ思いで生活しよう。これがメシアと似た者になるための道である。
 - (3) I ペテ 2 : 21・・・ここでの文脈は苦難である。メシアは進んで苦しみを受けた。ゆえに私たちも信仰のために進んで苦難を受けよう。
 - (4) I ヨハ 4 : 17・・・「この世にあってキリストと同じような者である」とは、キリストはこの世におられたが、この世の者ではない。同様に、私たちもこの世にいるが、この世の者ではない。そういう生き方をするのが、信者である。
4. 神の恵み
- (1) 私たちはメシアをまねる、しかし、信者の中にメシアのかたちを成してくださるのは神のみわざである。自分の力でできることではないのであるから、これは神の恵みである。
 - (2) 新約聖書の中で、このことが教えられている箇所
 - ① ロマ 12 : 3～8
 - ② I コリ 1 : 4
 - ③ I コリ 3 : 10
 - ④ I コリ 15 : 10
 - ⑤ II コリ 1 : 12
 - ⑥ II コリ 4 : 15
 - ⑦ II コリ 8 : 1、6、7、9
 - ⑧ II コリ 9 : 8、14
 - ⑨ II コリ 12 : 9
 - ⑩ ガラ 2 : 9
 - ⑪ エペ 3 : 2～8
 - ⑫ エペ 4 : 7
 - ⑬ ピリ 1 : 7
 - ⑭ コロ 3 : 16
 - ⑮ II テサ 1 : 12
 - ⑯ II テモ 2 : 1
 - ⑰ ヘブ 4 : 16
 - ⑱ ヘブ 12 : 15
 - ⑲ ヤコ 4 : 6
 - ⑳ II ペテ 3 : 18